

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

単発期外刺激によるリエントリー性頻拍回路同定の探索研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科（研究責任者）永嶋 孝一

＜研究期間＞

承認日 ～ 西暦 2020年 12月 31日

＜研究の目的と意義＞

心房粗動を含む心房頻拍、心室頻拍でのカテーテルアブレーションでは、まずその不整脈の回路がどこにあるのかを診断しなくてはなりません。その際に、連続刺激法(エントレインメントペーシング)や期外刺激法というペーシングによる診断法を用いて、回路の同定を行います。しかしペーシングの弱点は、そのペーシングによって目的とする不整脈を止めてしまったり、違う不整脈に移行してしまったりする事です。停止や、違う不整脈に移行すると診断することができません。そこで、現在行われているペーシングによる診断法の精度やペーシングによる不整脈の停止や移行を再度評価し、どの方法がどの患者さんに最良なのかを検討します。

＜利用する試料・情報の項目＞

カテーテルアブレーションを受けた患者さんの、リエントリーを機序とした心房頻拍や心室頻拍に対して、エントレインメントペーシングや期外刺激法を施行し、解析します。

＜対象となる患者さん＞

2018年7月1日～2020年12月31日に当院循環器内科で心房頻拍や心室頻拍に対するカテーテルアブレーション治療をされた方

＜研究の方法＞

上記患者さんのカテーテルアブレーション中に、ペーシングによって不整脈回路の診断を行います。それぞれのペーシング診断法による診断の精度および不整脈停止の頻度を比較します。この手技はいずれも、治療に必要であり、どの患者さんにも行っています。得られたデータを後から解析しますので、安全性には問題ありません。この検討により、不整脈回路をより迅速に、正確に診断することが可能となると考えられます。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

循環器内科 氏名:永嶋 孝一

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2413 (PHS)8142